

EUR / USD ユーロ米ドル 月次レポート

前月振り返りと2026年8月の相場展望

発行日

August 4, 2026

対象期間

7月実績 / 8月展望

通貨ペア

EUR / USD

発行頻度

Monthly

7月末レート（終値）

1.15386

▲ +1.03%（7月月間騰落）

7月高値

1.15436

7月安値

1.13530

ECB金利

2.25%

FED金利

3.50–3.75%

| 今月のハイライト

- 7月は1.14207からスタートし、月末にかけて1.15386まで上昇して引け、月間+1.03%とユーロ高・ドル安となった
- ECBは7月23日に3金利を据え置き（預金金利2.25%、全会一致）。ラガルド総裁は9月の判断に含みを残した
- FOMCは7月29日に9対3で据え置き。3名が利上げを主張して反対し、意見の相違が意識される中でドルの上値が重くなった
- 米欧金利差は米側が優位な状態が続くが、月末にかけてのドルの伸び悩みがユーロを下支えしたとみられる

8月 基本シナリオ レンジ

1.140 – 1.160

ECB・Fedとも次回会合は9月。米欧の指標が焦点（確率50%）

米欧政策金利差

1.25–1.50pp

Fed上限3.75%・下限3.50%とECB預金金利2.25%の差

始値

1.14207

7月1日

高値

1.15436

月中最高値

安値

1.13530

月中最安値

月間騰落

+1.03%

+0.01179

7月の相場動向

7月のユーロドルは**1.14207**でスタートし、月を通じて底堅く推移した。月中の安値1.13530から切り返し、**月末にかけて1.15436の高値をつけた**。ECBが7月23日に据え置きを決めた一方、**7月29日のFOMCが9対3の据え置き**となり、意見の相違が意識される中でドルの上値が重くなったことが、ユーロを下支えしたとみられる。

月末は1.15386で引け、月間+1.03%となった。米欧金利差は引き続き米側が優位な状態にあるが、月末にかけてのドルの伸び悩みが相場を支えた面がある。中東情勢に絡むエネルギー価格の動向は、引き続き両通貨圏のインフレ材料として意識された。

主要イベントの影響

EU ECB 7月23日 据え置き

3金利を据え置き（預金金利2.25%）、全会一致

ラガルド総裁はデータ次第の姿勢を強調し、9月の判断に含みを残した

ユーロ圏の7月インフレ（HICP速報値）は前年比2.9%と、6月の2.8%から加速（7/31発表）。原油高が主因

US FOMC 7月29日 据え置き

9対3で3.50～3.75%を据え置き（5会合連続）

Hammack・Kashkari・Logan各地区連銀総裁が0.25%利上げを主張し反対

Warsh議長はインフレを「選択の問題」と表現。フォワードガイダンスは簡素化

7月の総括

7月はECB・Fedがともに据え置きとなる中、FOMCで3名が利上げを主張するなど意見の相違が意識され、ドルの上値が重くなった。これがユーロを下支えし、ユーロドルは月間+1.03%と上昇した。米欧金利差は引き続き米側が優位だが、月末にかけてのドルの伸び悩みが相場を支えたとみられる。8月は両中銀とも会合がなく、米欧の経済指標とドルの方向が焦点となる。

8月の注目ポイント

8月はECB・Fedともに会合が予定されていない（いずれも次回は9月）。ユーロドルは、米欧の経済指標とドルの方向の影響を受けやすいとみられる。米インフレ・雇用指標が上振れすればFedの追加引き締め観測を通じてドルが下支えされる可能性がある一方、軟調な指標が続けばユーロの底堅さが意識されやすい。米欧金利差は米側が優位な状態が続いており、上値では戻り売りも意識されやすいとみられる。

シナリオ別レンジ予測

 ユーロ強気	30%	米指標が軟調でドルの上値が重い展開	1.150 – 1.170
 基本	50%	両中銀とも会合がなく、指標にらみのレンジ推移	1.140 – 1.160
 ユーロ弱気	25%	米指標が上振れしFedの追加引き締め観測が強まる	1.125 – 1.145

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
米CPI・雇用統計の上振れ	中	ユーロ安	インフレ指標が上振れすればFedの9月利上げ観測が強まりドル高・ユーロ安
Fed内の利上げ主張の拡大	中	ユーロ安	7月会合で3名が利上げを主張。支持が広がれば米金利上昇を通じてドル高
ECBの追加利上げ観測	中	ユーロ高	エネルギー高が続けばECBの追加利上げ観測が強まり、ユーロが買われやすい
ユーロ圏景気の下振れ	中	ユーロ安	景気減速が意識されればECBの利上げ観測が後退しユーロ売り

8月の見通し

基本シナリオは**1.140～1.160のレンジ**（確率50%）とみている。米欧金利差は米側が優位な状態が続き、上値では戻り売りも意識されやすい。8月は両中銀とも会合がなく、**米欧の経済指標とドルの方向**が主な材料となりやすい。9月のFOMC・ECB会合を控え、米インフレ指標の内容に留意したい。

用語解説

Fed / FOMC

米国の中央銀行（連邦準備制度）とその政策決定機関。7月会合では9対3で据え置き。次回は9/15-16。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する**基準金利**。Fed上限3.75%とECB預金金利2.25%の差は1.50pp。

HICP

ユーロ圏の**消費者物価指数**。ECBが物価目標（中期的に2%）の基準とする指標。7月速報値は前年比2.9%（6月2.8%から加速、7/31発表）。

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏21カ国の中央銀行。6月に約2年ぶりの利上げを実施後、7月は据え置き。次回は9/10。

ドットプロット

FOMCメンバーが将来の**政策金利見通し**を点で示したグラフ。次回の公表は9月会合が予定されている。

フォワードガイダンス

中央銀行が**将来の政策方針を事前に示す情報発信**。Warsh議長の下では簡素化される方針が示されている。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。